

第1回選定25件の横顔



北海道遺産
Hokkaido Heritage

平成13年10月22日、第1回選定の北海道遺産25件が生まれました。

「稚内港北防波堤ドーム」(稚内市)



稚内-樺太大泊間の旧稚泊航路整備の一環として、冬季の北西越波防止のために建設された半アーチ式ドーム。海上からの高さ14m、柱間6mの円柱72本を並べた長さ427mの世界でも類を見ない独特の景観と構造を持ち、港湾土木史に残る傑作であるとともに、旧樺太航路時代の記憶を残す歴史遺産。設計者は、当時26歳の土木技師・土谷実。



ニシン漁は、松前藩の時代から北上するニシンを追い、千石場所を変えながら、地域にさまざまな物語を残した。豊漁、薄漁、凶漁と気まぐれに押し寄せるニシンに翻弄され、いったん群来を見ると番屋では数の子や身欠きニシン作りにあけくれたが、ある年、ニシンは忽然と姿を消した。そんなニシン漁の賑わいを今に伝えるのがニシン街道の番屋である。

「留萌のニシン街道 (佐賀番屋、旧花田家番屋、岡田家と生活文化)」
(留萌地域)

「増毛の歴史的建物群 (駅前の歴史的建物群と増毛小学校)」
(増毛町)



留萌線の終着駅、増毛。駅の周りには明治初期から営業を続けてきた旧商家丸一本間をはじめ、日本海の風雪に耐えた石造りや木造の建物が並ぶ。高台にある増毛小学校は1936年に建築された戦前期都市型木造校舎としては道内唯一の現役校舎。今も子どもたちが元気に学び、体育館ではコンサートも開かれるなど、多くの人に親しまれている。



アメリカ人宣教師G.P. ピアソン夫妻の私邸として1914(大正3)年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛(現在の北見)。娯楽運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW.M. ヴォーリス。

「ピアソン記念館」(北見市)